



信長は、六話目に現れる。 —コテンラジオのすすめ—

会員 町田 弘香 (41 期)



2019年に始まった歴史ポッドキャスト「コテンラジオ」。Apple Podcast ランキングでも常に上位に入る人気番組である。

コテンラジオは、歴史好きの2人（深井さん、ヤンヤンさん）と、「歴史弱者」を自称する樋口さんの3人による掛け合い形式の番組だ。700話を超え、やなせたかし、西郷隆盛、エリザベス1世など人物を扱うシリーズ、日露戦争、フランス革命など国や地域を扱うシリーズ、民主主義、資本主義、科学技術など社会の仕組みをテーマにしたシリーズまで、その内容は実に幅広い。人物やテーマによっては10話以上になるシリーズも珍しくない。参考文献も公開し、丁寧な下調べに基づいて歴史を現代につなげていく。

私が最初に惹かれた理由は、そのわかりやすさと面白さだった。深井さんの分析、ヤンヤンさんの補足、そして樋口さんのリスナー目線の質問やツッコミによって、歴史が立体的に浮かび上がってくる。

コテンラジオは、歴史の語り方に大きな特徴がある。「なぜその人物が現れたのか」「なぜ国の歴史がそのようになったのか」を理解するために、何百年、時には何億年も遡る。例えば、織田信長（全12話）について語るとき、信長が登場するのは6話目から。「もののふ第0世代 爆誕」などから始まり、信長が生まれるまでの景色が描かれる。ムガール帝国（全12話）も同じだ。話は3億年前まで遡る。その背景があるからこそ、「だから、そうなったのか」と思わず膝を打つ。

また、コテンラジオでは、日本の学校ではあまり学ばない中央アジアの歴史も面白く学べる。ムガール帝国（現在のインドを中心に栄えた帝国）、オスマントルコ、チンギス・ハンを聞いていた間、「わくわく」「へー！」の連続だった。通勤電車で聞いていた私は、毎朝、事務所に着くなり事務員さんに「聞いて聞いて」と話していた。例えば、オスマン帝国では、新しいスルタン

が即位すると後継者争いを防ぐため、兄弟を殺すことを

制度として認めるようになったこと。騎馬民族はスーパーサイヤ人（『ドラゴンボール』に登場します）のように強かったこと。そんな話を聞かされていた事務員さんは、ちょっと迷惑だったのではないかなと思う。

それよりも、中央アジアといえば、私が一番驚いたのは遊牧民の国家観だった。私たちは、国とは国境の中にあり、都も決まった場所にあるものだと思っている。しかし、遊牧民（定住せず、家畜とともに広大な草原を移動しながら暮らした人々）にとっては違う。

遊牧民にとって国とは、人々の共同体そのものだった。だから固定した国境という発想も薄く、都もまた王とともに移動する。ただのテントの王宮を持って。

そんな国家観を、私は考えたこともなかった。いつの間にか、コテンラジオを通して見える世界は、それまで眺めていた世界とは、まったく違うものになっていた。

コテンラジオは、こうして「世界の見え方」を変えられるだけではない。歴史上の人物たちとも出会わせてくれる。私は、コテンラジオを聞いて、高杉晋作、西郷隆盛、アレクサンドロス大王、ハンニバル、カエサル、チンギス・ハン、三蔵法師たちと知人になった。

少年漫画のヒーローのようなアレクサンドロス大王、「ローマ殺すマン」のハンニバル、『水がないように思うのは、私がそう思っているから。』そんな唯識で砂漠を越えようとした三蔵法師。

歴史の教科書では年号と業績しか知らなかった人物たちに、いつの間にか会ったことがあるような気がしてくる。その人が生きた時代も国も、ぐっと身近になる。

気になった人物でも、国でもいい。そこからコテンラジオを始めてみてほしい。その先には、きっと思いもよらない景色が待っている。